

令和7年度事業報告

- (1) 開発途上国の保健・福祉に関する調査研究
- (2) 保健福祉関係者の研修および交流
- (3) 機材および薬品の供与
- (4) 開発途上国国民に対する環境衛生思想向上のための広報活動
- (5) 開発途上国に対して行われる保健医療分野の研修員に対する研修上の助成
- (6) 前各号の事業に必要な施設の設置運営およびその他の付帯事業
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

I 国際博愛協会のタイ国チェンマイ大学並びにチェンダオ病院訪問の報告等

前記 事業(1)と(4)の配布状況の調査および(2)の交流にあたります。

令和7年度の海外現地視察は立浪忍理事、大西あけみ事業推進委員、神山利江子氏の3名で行われた。

2026年3月20日

(一財) 国際博愛協会
大西 文和 理事長殿

2025年度チェンマイ視察報告書

理事 立浪 忍

1. はじめに

2026年2月15日より一週間に亘り、大西あけみ事業推進委員および神山利江子氏とともに、タイ国チェンマイの中心部および近郊、並びにチェンダオ地区の視察に同行しましたので、その概略をご報告します。

2. 視察目的

2025年度の視察目的は、チェンマイの中心部および近郊、並びにチェンダオ地区における以下(1)～(4)の項目である：

- (1) チェンマイ中心部および近郊

1) チェンマイ大学 (CMU) 医学部幹部への表敬訪問と、同大付属病院看護部における会義

2) CMU 関連施設等の視察

(2) チェンダオ地区

1) チェンダオ病院を訪問。一般財団法人国際博愛協会 (JIGF) の寄付が目的にかなって運用されているか、病院幹部との面談、および関係者との会議により確認する。また、寄贈した狭山博愛の医療機器・機材の利用状況を病院内視察により確認する。

2) チェンダオ病院の訪問看護が実施されている結核患者宅を訪れ、2025 年度の訪問看護の実情を掌握し、結核治療薬が適切に配布され、服用が適切に指導されているかを確認する。

(3) 今後の約 10 年間における JIGF からの支援方式についての検討

(4) 関連式典および交流行事への参加

3. 視察結果の概要

今年度の視察では関係各位の日程調節を行った結果、タイ国到着の翌日から上記目的 (2) を遂行するためチェンダオ地区を訪問した。以下の概要は、視察の経過に沿って報告する。

(1) チェンダオ地区

1) チェンダオ病院：現状の聞き取りと病院内視察

Pisittawoot Ayood 病院長によりチェンダオ病院周辺地区の結核患者の状況や治療状況の説明がなされた。2022 年から 2025 までの結核患者数は、76 人、73 人、53 人、および 64 人で、2026 年についてはこれまでに 21 人となっている。2025 年の治療実績は、71.4%が治療に成功し、一方で、死亡例が 19%であった。また、追跡不能例が 9.5%含まれていた。チェンダオ病院における結核患者の特徴として、アンフェタミン等の薬物常習者や多量の飲酒や喫煙をする者が多く、これらの習慣を有する高齢者に死亡例が多い。追跡不能になる例の多くは、国境周辺に居住し電

話連絡の手段がない人々で、これらの多くも薬物やアルコールの常習者であるとのことであった。

以上の説明に引き続き、JIGF からの支援金の使途と狭山博愛からの機器・機材の受け入れ状況について説明があった。船便で到着した機器・機材については、Chaiprakan、Saraphi、Fang の 3 病院と Seiko Care Elderly Care and Rehabilitation Center にも分配された状況が報告され、これらの寄贈に対して丁重な謝辞を頂いた。

報告が行われた会議室には、チャイプラカン病院の病院長がスタッフと共に臨席して下さり、次回はぜひチャイプラカン病院にもお立ち寄り下さいとのことであった。

その後、チェンダオ病院内を視察した。これまでの援助対象機器について、消耗品の補給や機器自体の管理は適切に行われていることを確認した。また、狭山博愛の閉院にともなって寄贈した医療機器・器具などの掌握も適切に行われており、テーブルやカートは既に有効に利用されていた。加えて、ソファークッションや油彩の大型絵画が執務室などに適宜配置されていた。狭山博愛の閉院によって寄贈したこれらの物品が、国境を越えて役立っている様子は感動的であった。

なお、医療機器の実践的な院内配備に関しては、病院が所有し管理する機器として、公式な帳簿上の登録・管理が必要であるので、現在その手続きを進めているとのことであった。

2) チェンダオ病院で実施されている結核患者訪問看護医療の実態調査

今年度の視察では、訪問医療を実施中の症例 1 例について、その居宅を訪問した。
症例：65 歳男性。

本症例は HIV および HCV にも重複感染がある。結核に関しては 2025 年 11 月 3 日に、呼吸しにくい等の自覚症状によりチェンダオ病院を受診し、即日検査にて陽性（AFB）が確認された。HIV 陽性は 20 年前に確認されており、それ以後 HIV に関しては投薬治療下にあるが、これに加え、結核陽性が確認されたため、チェンダオ病院で実施されている結核患者訪問看護医療の対象となった。幸い、結核に関しては 2026 年 1 月 8 日の検査で陰性化が認められた。

現在、HIV に関しては viral load が 2064 copies/mL、CD4 200/ μ L 未満で、少々厳しい状況にある。HIV には今後も多剤併用による投薬が不可欠であるが、現在は結核治療薬との併用であったことを考慮して、新しい HIV インテグラーゼ阻害薬であるドルテグラビルが、多剤併用薬中の 1 剤として処方されていた。

この患者はタイの国籍を有するため、保険医療制度の対象として医療を受

けることができ、また、HIV 感染者支援プログラムによるボランティアの支援を受けている。しかし、酸素ボンベの利用など医療機器の操作に関してはボランティアには難しい部分もあり、チェンダオ病院の結核患者訪問看護医療の対象となったことは極めて有意義であったように思われた。

(2) チェンマイ中心部および近郊：チェンマイ大学（CMU）および関連施設等

1) SEIKO Care 老人介護施設の訪問

介護医療院医狭山博愛の閉院による医療機器などをチェンダオ病院に輸送するにあたり、遂行上の様々な問題解決に協力を頂いた SEIKO Care Elderly Care and Rehabilitation Center を訪問した。完成したばかりの入居棟では、JIGF から寄贈された介護ベッドが 2 台稼働しており、寄贈品であることを示すステッカーが貼られていた。なお、このベッドに関しては、狭山博愛における使用による車輪の消耗が著しかったが、交換用の部品が円滑に調達可能ということであった。そこで、チェンダオ病院側に寄贈した 8 台分についても交換部品を発注することとした。

2) チェンマイ大学幹部の表敬訪問

医学部長の Narain Chotirosniramit 教授、および Arintaya Phrommintikul 病院長と会談した。医学部長は、昨年同様にフレンドリーにスピーチを始められ、長年に亘る JIGF の活動に対して親愛なる謝辞を頂いた。続いて病院長からも毎年の訪問に対する謝辞を頂き、Alumni を中心とする友好関係についてよく理解しているとのことであった。さらに、看護部長から、JIGF との交流は今後 10 年程度等と限定せず、より末永く継続したい気持ちであるのご挨拶を頂いた。

JIGF からは、大西あけみ事業推進委員より JIGF の付属施設であった介護医療院の閉院後も日本研修の受け入れを続けることができおり、今後も良好な関係を維持したい旨が述べられた。会談は極めて友好的に行われ、最後に、CMU から今般の訪問に対する再度の謝辞と記念の品々を頂戴し、JIGF から CMU 側に種々の記念品を贈呈した。

3) CMU ウェルネスセンター

昨年度に引き続き、CMU 関連施設である高齢者総合健康福祉施設 Senior Wellness Center を見学した。同センターは、高齢者の利用に特化した健康施設、タイ式マッサージ療法施設、および健康診断・診察機能が統合された複合施設で、診断・診察に関しては CMU 医学部のメンバーが業務を担っており、付属病院の外来受付に相当するサテライトを有している。このウェルネスセンターは、今後の社会に求められる高齢者用の複合施設型の先駆的なモデル事業として運営されている。水泳プール棟は浄化装置の更新のため昨年訪問時には閉鎖されていたが、今回は稼働しており、リハビリテーションの

運動プログラムに利用されていた。

(3) 今後の JIGF 支援方式についての検討会議

昨年度の視察時に行った会議の結果を受け、今後の支援の在り方に関する相互確認を進めるために2回の会議を行った。

議論する支援金の要素は、イ) covid-19 の世界的流行による相互訪問の中断期間の暫定措置として支援した extra budget、ロ) 2025 年の地震発生に関して送った支援金、ハ) 大西博初代理事長からの寄付によって設立された基金、そして、ニ) 例年の支援金の4項目である。

第1回目の会議は、チェンダオ地区訪問時の宿舍にて夕食前後の時間帯に実施し、とくに、イ) およびロ) の活用について話し合った。後半の会議にはチェンダオ病院の病院長も参加して下さり、イ) に関しては結核治療およびそれに関連する医療の目的であれば、幅広く利用することができるという考えを共有することができた。

この会議では、宿舍の広間に CMU、チェンダオ病院そして JIGF の面々が一堂に会し、和やかな状況の中で議論が進行した。あたかも、大きな家族のメンバーが実家に集合したような雰囲気が醸し出され、実のある「国際交流」が現実展開されているという強い印象を受けた。

第2回目の会議は、CMU 看護部会議室にて行った。ここでは特に、ハ) の件について質疑が交わされ、昨年よりも具体的な使途の案が CMU から提示された。その主な内容は、看護分野におけるデータサイエンス、人工知能、仮想空間関連のアプリケーションなど、将来必要となる能力を涵養するための専門研修プログラムへの参加費用を、計画的に補助するというものであった。また、ロ) については、災害時の避難器具や備蓄の装備・備品に利用できることを確認した。さらに、ニ) については、ファミリードクターブックレットおよび衛生普及小冊子の出版に関し、紙ベースの出版の継続と並行して、これらをデータブックとして有効的にアーカイブして行くために必要な費用にも使用することとした。

なお、以上の資金に関しては、その出金に当たり、使途の内容を JIGF に報告し、JIGF の了承を確認した上で実施する手順をとるよう、再度の確認を行った。

(4) 関連式典・交流行事

1) 追悼法要

JIGF 初代理事長の大西博先生と奥様の大西延子様、両角森雄先生および奥様の両角田鶴江様の追悼法要が、Monk 棟にて営まれた。法要は総勢5名の僧侶による儀式に従い、JIGF Alumni を中心とする多数の看護師らが参列した。

JIGF Alumni においては、大西博先生ご夫妻および両角先生ご夫妻への変わらぬ感謝の思いは強く、CMU 病棟ビルの看護部執務室には大西博先生ご夫妻と両角森雄先生ご夫妻の写真が常設的に飾られている。

2) JIGF Alumni による歓迎会、

JIGF Alumni 主催による歓迎会が、Khum Kham International Convention Center で開催された。歓迎の出し物が公演された後、今般の歓迎行事主催グループを代表して、CMU 看護部長から挨拶を頂いた。その中で、JIGF による日本研修によって CMU のスタッフは高齢者医療に関する多くの事柄と、日本の文化について学ぶことができたこと総括が述べられ、さらに、チェンダオ病院側への機器の寄贈と 41 年間の協力に対する謝辞が述べられた。

歓迎会には Arintaya Phrommintikul 病院長も臨席され、結核医療の支援を軸とする JIGF の 41 年間の活動と、日本研修を経験した Alumni メンバーが CMU にもたらしている貢献に対する謝辞を頂戴した。

その後、今年度の視察の様子を時系列的に記録した写真と動画を編集したパワーポイントが会場のスクリーンに上映され、多くの皆様より JIGF へ数々の記念品を頂いた。JIGF からも感謝の品々を贈呈した。

閉会に際し、大西あけみ事業推進委員より、タイ国側の皆様の多大な協力への御礼と挨拶がなされた。その中で、(旧) 博愛病院と介護医療院医狭山博愛の、双方の建物の解体工事が順調に進行していることが報告された。また、JIGF 現理事長である大西文和先生が牛乳アレルギーと判明した折の、博愛病院時代のエピソードが紹介され、現在ほぼ更地となった JIGF 附属施設の往時について、多くの参加者が思いを巡らせた。

最後に、今後も JIGF と CMU の友好関係を継続していくことを一同が祈念しつつ閉会となった。

4. 結び

2025 年度のチェンマイ地区視察もタイ側歓迎チームによる周到な準備により円滑に遂行されました。結核治療の支援を主目的とする JIGF の事業活動は、着実に成果を上げていると考えます。また、人口の高齢化に伴う種々の問題がタイ国でも進行しており、長年この問題に取り組んできた一般財団法人国際博愛協会と、CMU およびチェンダオ病院との国際交流は、今後も意義深いものとなって行くものと考えられます。

Ⅱ 海外の医療従事者の招聘および研修

前記事業の（２）（４）および（５）にあたります

（４）に関しては結核啓蒙ポスター（英語版、タイ語版、ミャンマー語版）を船便で狭山博愛の機材、備品を運ぶときに同時に運んで配布してもらっております。

令和７年度招聘は狭山博愛の備品のチャンダオ病院やチャイプラカンなどの結核施設に運ぶ賃金３００万円があったために３グループ９名を招聘いたしました。

２０２５年９月２９日～１０月１０日

Mrs.Supansa Wanna

Ms.Patcharee Tibta

Ms.Suchada Manasathit

２０２５年１１月１０日～１１月２１日

Mrs.Pornwilai Tanachindawong

Ms.Chumnumporn Isariyaphruet

Ms.Prakaikaew Saenduangdee

２０２５年１２月１日～１２月１２日

Ms.Monthicha Kantha

Mrs.Saipin Woothituntipong

Mrs.Kanjana Intharat

Ⅲ 医薬品等の供与タイ国チェンダオに対し抗結核剤現地購入代金として50万円を送金。

前記事業の（3）および（4）にあたります、（4）に関しては海外視察の際、結核啓蒙ポスターも出来るだけ運んでもらい、配布してもらっております。

Ⅳ ファミリードクターブックレットの出版配布（タイ語版）出版費用として５０万円を送金しております。

前記事業（４）にあたります。

タイ国チェンマイ大学医学部と協力し、衛生普及小冊子を毎年出版配布しております

前記事業（４）にあたります。

V 旧介護医療院狭山博愛の医療機材及び医療材料の寄付

令和6年度に引き続き、旧介護医療院狭山博愛で使用していた医療器材や医療材料、ベッド、床頭台、ロッカーや棚や机などの備品にいたるまで、船便で搬送いたしました。チェンダオ病院が中心になってこれらの機材などを、近隣の病院や結核療養所に分配した。

VI 2025年3月28日、ミャンマー中部でマグネチュード7.7の強い地震が発生し、チェンマイ大学内にも多数の地震による傷病者が運ばれて来た。チェンマイ大学の施設にも地震によるひび割れが生じた地震見舞金としてチェンマイ大学に100万円送金した。

Ⅶ 研修施設である狭山博愛クリニックの運営

前記 事業の（２）（５）（６）にあたります。

狭山博愛クリニックの職員数は

職種	常勤	非常勤	合計
医師	1	1	2
准看護師	1	0	1
事務	2	0	2
合計	4	1	5

令和7年度の狭山博愛クリニックの月別患者数

令和7年度 月	人数
4月	11名
5月	11名
6月	18名
7月	15名
8月	11名
9月	13名
10月	16名
11月	13名
12月	17名
1月	13名
2月	13名
3月	15名
合計	166名
平均	13.8名